

キャラクター名
或村風真 (あるむら・おうま)

プレイヤー名

シンドローム	エンジェルハイロウ サラマンダー	ワークス	レネゲイドビーイングB	カヴァー	刑事
オプション	ハヌマーン	年齢	22 (?)	性別	男
覚醒	犠牲	衝動	妄想	初期侵食率	35 %
出自	偽りの家庭	経験	幸せなひととき	邂逅	同志

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	2	0	0			2	行動値	14
感覚	3	1	2			6	(非装備時)	14
精神	2	0	0			2	戦闘移動	19
社会	1	0	0			1	全力移動	38

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	1		RC	4		交渉		
回避			知覚	1		意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス	消費
神速の担い手	P	N		
或村風真	P 遺志	N 悔悟		
倉本瑠依	P 連帯感	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
ヒューマンズネイバー	1	基礎+5	常時	至近	自身	-	RB	
効果: 衝動判定ダイス[+Lv]個/侵蝕率レベル補正なし								
オリジン:ヒューマン	5	2	マイナ	至近	自身	-	RB	
効果: エフェクト判定達成値[+Lv]								
戦いの予感	2	2	セットアップ°	至近	自身	-	-	
効果: 1stRのみ/行動値[+Lv*10]/シナリオ1回								
スピードスター	1	3	セットアップ°	至近	自身	-	D0イス	
効果: ラウンド間攻撃力[+行動値]/自身リアクション不可/シーン1回								
光の手	1	2	Xジャー/re	-	-	<RC>	-	
効果: 【精神】⇒【感覚】置換								
コンセントレイト:An	2	2	Xジャー	至近	自身	-	-	
効果: CI値[-Lv]/下限7								
破壊の光	3	2	Xジャー	視界	範囲選択	<RC>	-	
効果: 攻撃力[+2]/同エンゲージ不可/シーン[Lv]回								
天使の外套	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

一人の青年と、彼を媒介として存在する協力型レネゲイドビーイング。
 青年の『ヒーローへの憧れ』の思いに感化されるかたちでレネゲイドが目覚め、それが現在も存在の基盤となっている。
 関係はおおむね良好で、オーヴァードの能力を善行に使うことを徹底し、互いに協力関係にある。
 快活で人好き、ひたむきで、困っている人は放っておけないお人好し。絵に描いた『ヒーロー』のような性格。
 オーヴァード能力を買われ、若年にしてR担所属刑事として務めている。いつも一匹の黒猫を連れてくる。

(以上、本人へのインタビュー記録を元に編纂)

.....

[資料]
 《英雄とは斯くあるべきか?》は、10代後半の人間の青年の遺体(以降『宿主』と記述)に寄生する支配型レネゲイドビーイングです。
 本体個体を識別する名称はなく、宿主の姓名である「或村風真」を自称し、「或村風真」としての生活および社会活動を継続しようとする。
 宿主は〇〇年〇月〇日未明、鯖摩市内の河川に流され消息を絶ちました。当該河川は前日までの豪雨により増水しており、極めて危険な状態でした。
 行方不明となった翌日に、1km下流の水中に沈んで死亡しているところを自立型RBが発見、遺体に取りつくことで支配型RBへと変異しました。

それが何であれ放ってはおけなかったー ー救いなんて誰にも求めていなかった
 どうしても君を助けたかったー ーどうしようもなく嬉しかった
 だからオレはー ーだから僕は
 あの日、『ヒーロー』になったんだ。